

巻頭言 就任の御挨拶

大阪医科薬科大学
学長
佐野 浩一



学校法人大阪医科薬科大学の下、2021年(令和3年)4月1日をもって大阪医科大学と大阪薬科大学が統合され、大阪医科薬科大学となり、不肖私が学長に就任いたしました。御存知の通り大阪医科大学は昭和2年(1927年)に日本初の五年制医育機関・大阪高等医学専門学校として開設され、昭和21年(1946年)に大学令による三年制予科を備えた旧制医科大学となり、このとき、昭和6年(1931年)に廃校となった「大阪府立大阪医科大学」の名称を借りて以来、75年の長きに渡って慣れ親しんだ「大阪医科大学」の校名を大阪薬科大学との統合を機に「大阪医科薬科大学」と変更し、医療系総合大学を目指すこととなりました。新しい時代の高等教育機関の在り方の範ともなるべき統合であるとされており、統合後の体制整備に尽力したいと考え、日々精進努力しております。本学医師会の皆様におかれましては、御指導・御協力のほど、よろしくお願いいたします。

さて、私も長年大阪府医師会の代議員として本学医師会に参画しておりました。その活動の中で苦労したことは、本会の位置付けでした。本会は、公益社団法人日本医師会傘下の一般社団法人大阪府医師会勤務医師会第2ブロックの分科会に位置付けられています。従って、本会の活動は大阪府医師会の活動となります。現在大阪府医師会長には本学卒業生の茂松茂人先生が、また大阪府医師会の理事には本学の星賀正明教授が就任されており、森脇真一会長のもと、本会は茂松会長と星賀理事を全面的に支援しなければなりません。

国がデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する中で、ビッグデータの一部である診療情報は医療の質を確保するだけでなく今後の保険医療の経済性を検討する材料となり、マイナンバーカードの導入や医師の働き方改革と相まって医師会の会員の在り方を大きく左右するものです。また、日本医師会が発行する医師資格証はサイバー空間と現実空間を高度に融合するシステムを用いるSociety5.0において医師が自律して活動するために不可欠なものです。医師には予防から治療まで保健医療の枠を越える幅広い活動とその根拠となる医学的・公衆衛生的裏付けの研究が求められており、医師資格証は単に医師免許証の管理だけでなく、医師が保険医療行政とは異なる客観的な立場で自らの医師としての資質を維持・発展させるために活用しなければなりません。更に、現在猖獗しているCOVID-19が医療はもとより社会に及ぼす影響は計り知れず、前述の変化を大きく加速するものと思われます。

そのような激動の社会で本会会員の皆様におかれましては、医学教育研究に邁進されると同時に医療安全を確保しつつ効率的効果的な医療や公衆衛生活動に取り組まれる毎日をお過ごしのところ、今後の日本の保険医療や公衆衛生の在り方に関して本会誌を通して情報や意見の発信をしていただき、ニューノーマル医療の形成に寄与されんことを祈り、巻頭言といたします。